



関ヶ原軍記
三編 七
七二

〜遠13
2207
41



門へ遠 13
補 2207
卷 41

池清

関ヶ原軍記三篇卷之廿五

目録

- 一 星野豊三郎太夫 石田三成討ち事
- 一 并田中念助太夫 三成討ち百捕事
- 一 石田三成三井寺所陣之禁獄中大言吐事
- 一 并井伴直政利害三成納得の事

徳川十五代記 編

春雨文庫 編

敵討 兼野權三代記 全部十五冊

近世記聞 編

明治太平記 全

開明 小説 鳥追於松實録 五
大尾

肥長 鹿兒嶋士傳 編

此書乃や出軍古事の日記或戦地より歸京せし探偵人等の説話に因り西國証討の如末と詳細とせる第一の實録なり

珍説 夜嵐實記 全

近世 小倉青木實記 全部

近日出来

近世 櫻田實録 全

此徳川家の旗本青木弥太郎小倉藤長吉昌被服の奇事奇事暴露強談の悪事日本奥方艱難心苦と記し實録の成然綴りたれ近世の珍書なり

書物 繪入 貸本所

東京牛込細工所

誠光堂

池田屋清吉謹白



岡ヶ原軍紀三編卷之廿七

星野^り共^の二所^ふを^ま 石田^か治郎^の少^せ輔^し

地^ち新^{しん}つ^つ車^ま

并^な田^た中^{ちゆう}三^{さん}郎^{らう}太^た輔^ふ 三^{さん}成^{じやう}と^と百^{ひやく}捕^と車^ま

い^いろ^ろく^く 石田^い治郎^ぢ少^{せう}輔^し古^こ橋^き村^{むら}

の^の星^{せい}野^のと^と二^に所^{しよ}を^ま 石田^い治郎^ぢが^が方^{かた}に^に 治^ち深^{しん}く

忍^{しの}び^びみ^みら^ら車^まと^と星^{せい}野^のが^が方^{かた}又^{また}左^さ馬^ま

つるれを喫てふ二所を又三見
成如く依く是飛りおらるるは
申す部を怖くするふあり
人殺強来りて石田城に捕大津
之井寺より百是もその体高に足
若殿ゆへ
内府公より
清小袖下さん清菓子城あり
三成入ひ小罵りまゝに病氣頼り

ありといへる昔々後葉城用ひ
む仍く井作重政對面して
利害をとりて石田城へ
書生共禁獄以後刑罷と義白
夏手後前中綱を考案存命の
せんを披露す
奉恩文卿立後あり去時が
本多が忠義の徹実をうつく

感^えずあひく増^さ知^ち政^{せい}終^{しゅう}りり
御^ご免^{めん}ちりり

兵書^{へいしょ}よりく白^く紙^し摺^ず紙^し雜^{ざつ}
是^{こゝ}て淡^{たん}丈^{じやう}乃^の細^こく入^いり信^{しん}矣^や
水^{みづ}沢^{ざい}矣^や乃^のく換^か換^か不^ふ吸^すせらる
之^{こゝ}の古^こ終^{しゅう}古今^{ここん}往^{わう}來^{らい}の通^{つう}を
考^{かう}録^{ろく}上^{じやう}下^げに同^{どう}トさんバ
石^{いし}田^{でん}三^{さん}年^{ねん} 淡^{たん}田^{でん}秀^{しゅう}家^かをぞら

玉^{たま}るみして弓^{きう}矢^やの女^{にょ}智^ちる
三^{さん}玉^{ぎよく}子^し秀^{しゅう}也^や中^{ちゆう}みを淡^{たん}田^{でん}
秀^{しゅう}家^かの父^ふ實^{じつ}父^ふ直^{ちく}家^かなり
八^{はち}女^{にょ}の附^つ別^{べつ}も亡^{むつ}父^ふ直^{ちく}家^かなり
之^{こゝ}のせり古^こ太^{たい}岡^{おか}は之^{こゝ}のみ
くらの急^{いそ}りごとく秀^{しゅう}吉^{きち}
公^{こう}乃^の子^し分^{ぶん}みして中^{ちゆう}西^{せい}後^ご前^{ぜん}
一^{いち}玉^{ぎよく}一^{いち}乃^のん子^し終^{しゅう}りり大^{だい}

名をいつの^か 屯^{つと}兵^{へい}を^とと^と
天下に馳^ち走^{そう}す^る 年^{ねん}を^あく^く
今二百万の大軍^{たいぐん}を^と年^{ねん}に^して
う^びに^まけ^る 出^で張^{ちやう}せ^る
と^と 白^{はく}龍^{りゆう}を^あつ^て
世界^{せかい}に^まち^り 鯨^{けい}鯨^{けい}大^{たい}海^{かい}の
潮^{うしほ}を^あり^さぬ^ちり^り
志^しを^あげ^る 盛^{せい}衰^{すい}忽^{とつ}ち^りに^ま交^{かう}

を^あげ^る 國^{くに}を^あつ^て 一^{いつ}戦^{せん}を^あつ^て 級^{きゅう}を^あつ^て
以^{もつ}て^は 人^{ひと}を^あつ^て 級^{きゅう}を^あつ^て
石^{いし}を^あつ^て 浮^う田^{でん}を^あつ^て 級^{きゅう}を^あつ^て
あ^つて^は 漢^{かん}を^あつ^て 級^{きゅう}を^あつ^て
年^{ねん}を^あつ^て 奴^ぬ僕^{ぼく}を^あつ^て 級^{きゅう}を^あつ^て
し^らせ^る 末^{まつ}代^{だい}を^あつ^て 名^なを^あつ^て
地^ちを^あつ^て 離^りれ^る 名^なを^あつ^て 離^りれ^る
白^{はく}龍^{りゆう}を^あつ^て 離^りれ^る 名^なを^あつ^て 離^りれ^る

此其あるは候父の網へ入り候
網より大魚よりして大海よりして
自由と好らるとしてども平砂
よりする時とてその山は
其あるは流石も大魚は冷ま
しきも候候の類集りて
身と吸喰んとて其らもすま
やうありてそれがとある

身と絶ちて居候のどし
とて其の時のとき大まよ御
くるよとて小忠はちり
よ及だんや平生の人をよ
布と急量りりて飛能達
者よとて毛房ぶらりと其の
期のごとく町人福者として
も其より候りたりてその時を

いふにひつらに人のるが
物も成り或ひに人のるる
入まれば吾恩は是る是るさる
うやうのるのり評判なるふ
やどの人よても時せりを
考ぐ人時と待るる志のぶ
志うんをめんくあき若
とていふ解る人悔る

ものるんを真心なりこそ
まじふものる人勢ひ成
うるものり成人も同
トものるりまのるまじく
親しむ人も其なり成る不
孝れのものらたあな風情
成るものる禁がら白せん
遠るものる志うんが人と交

合あざるの昔むかしし何なにも破やぶるに
金銀かねぎんや物もの終はつりするやうに
のあり古ふる奇きなり

秋あき也や鏡かがみ手て移うつるもの

物ものは左ひだりより右みぎに

足あし少すくくならん

却かへつてみてもあつても
めんくはるるにさうな

何なにもなま車くるまなり板いた石いし田た浮うき
田たより昔むかしれども流なが浪なみの身みと
年とし々々の昔むかしのやうに
古今ここんも人ひとやあつたり
多おほくは人ひととあつたり
運うん送そう家けくるものあり又また不ふ運うん
して百ひゃく捕とららるる車くるまもあり
是天てん運うん乃なり志しくむらあ

とつらむ

去程ふ石田治郎少輔三威ひか古ふる
て村の星野と二所ふたところちまが方
に深く思ふ女房にむすめにあつとて
向ひ郡むかひのよりの人ひと次隠つぎかく
對世たいせい後ごたとして即すなはちより淺あはれるを
冥みやう奈な乃の刑けいく成なりるをを思おもふ
千田中せんぢやうぢゆうどのの病やま人ひとさきさきにに此こゝ

大おほなるれは終はつりの極たぎへ出でる
危あやき世よに終はつるお浪なみを結むすぶもの
ふの美み重おも百ひゃく枚まい終はつりつとつらや
まきく志こころくくば祈いのちへ出でく安やす樂しづ
に一生いっせいと送おくるがやとつらよふに
ちまちまあつとくを思おもふも思おもふま
ちのあり終はつりつとつらよふも余あまりに
痛いたく思おもふ今いま又また三日さんじつも思おもふを

至るは定めていづらうか
ん^{おん}習習しく思をせうら
り^ちのるら同村^ちに居りし
習^ち又左妻の言^あ（彼女房より）
肉^ちとて知^ちせうらお尋り又左
つ^ち妻のくこの事とりあはれ
ば^ち後世^ちとも吊^ちひま^ちせん
よ^ち二所^ちち又^ち左妻の妻人が^ち訴^ち

ゆ^ちとるのくむら中れその
左^ち石田^ち之^ち成^ち事^ち星^ち野^ちが^ち宅^ちお^ち思^ちび
居^ちら^ちしと^ち注^ちしん^ちよ^ち出^ちり^ち田^ち中
名^ち部^ちを^ち博^ちち^ち居^ち人^ち決^ちる^ちね^ち衆^ちめん
ち^ち思^ちく^ち葉^ち木^ちの^ち根^ちも^ち見^ちけて
居^ちぬ^ちら^ち時^ち良^ちる^ちれ^ちを^ち子^ちの^ちら^ちん
成^ち更^ちく^ち大^ちま^ちり^ち悦^ちら^ちび^ち田^ち中^ち傳^ち
左^ち妻^ちの^ち日^ちく^ち左^ち妻^ちの^ち妻^ち人^ち

命ト銀子三百人を懐く法田
庄右衛門次大おと成古橋邑
のよ二席を更が部次まゝに名老
きりこのせりる田三成々小田系
笠次冠り飛りーがサーえ
務ヶぼこんの振切れりのあるが
務骨まゝしゆるんの子おのある
をき者まゝのゆりりどと答へぬ

田中傳左衛門石田次郎知りて是
三成より終まるしと云ふり
別ちめんなくして義連の
名をせしり時と三成古太園
陣願の氣直の能刀一人みす程
何れと懐く終る石田を
捕らまぬ

石田三成^{いしだ せいせい}三井寺^{さんせいじ}陣^{じん}に林^{はやし}に^に榊^{かき}中^{なかつ}
大言^{おほいこと}吐^はつ

井伊直政^{いゐのちか}の利解^{りかい}より三成^{せいせい}納得^{なとく}の夏^{なつ}

初^{はつ}に田中^{たなか}信紹^{のぶしやう}を^を捕^{とら}まへ石田^{いしだ}三成^{せいせい}
城^{じやう}に^に捕^{とら}まへ大津^{おほつ}守^{しゆ}の^の浪^{なみ}さん^{さん}
せしが^し大切^{たいせつ}の^の因^よ人^{ひと}なる^るれば^{らば}吉政^{きちせい}
同^{どう}及^{およ}びて^てあり^{あり}歟^や

内府公^{うちふくこう}は^はこの^{この}むじ^{むじ}に^に決^{けつ}まら^らざる^{ざる}時^{とき}
泉^{いづみ}原^{はら}公^{こう}大^{だい}き^きなり

所^{ところ}懐^{なつか}き^きあつ^つて^て逆^{さか}張^{はり}り^りの^の決^{けつ}
ころ^{ころ}ころ^{ころ}の^の一^{いつ}内^{うち}定^{じやう}め^めあ^あ
まを^{まを}黄金^{おうごん}と^と路^ろり^りて^ての^のち^ち
予^よ武^ぶ運^{うん}り^りお^お時^{とき}ひ^ひと^とり^りと^とく^く
三成^{せいせい}を^を田中^{たなか}吉^{きち}政^{せい}と^とあ^あづ^づけ^け
ころ^{ころ}の^の刻^{せき}ち^ち榊^{かき}屋^や決^{けつ}つ^つり^りと^とく^く

入を野子の青人きざりく表初
九席 物友ふ左巻の 田中甚き
三人 秋青が くらと くらおの
内府公仰出さるるの近白うんを
引出して刑甚べりる秋まの
急入を中べりそののあり
具重子く三歳が松子とるね
く向ふ久く山中と境

浪して下府千終るる
急難等も尺苦く破れ換
ト尺る新を新く病を
てつるれこのごちの善海
改念して服免や仕る人
是悟子お見ゆよとヤ
くり衣も 内府公より
の清葉子代難又き歸るごと

予運こぶせ御みたの御みを帰かへらん
よりは時田中長之清ありて
持も出でくいつふ石田どのの
ふ福よりゆ小袖の葉子等も下
さんよりあららくく百ひ拾との九く葉子
をも乃な載のあらるる色いろららととささしし出でて
よ世之ぬき此時目を肉こめて居
より一いつこの席また服かは活くわと

尺し余よ身み上う福ふとの能のががるるあり
中ちくくるるぬぬらんらんん田中でんちゆう言いて
内うち府ふ公こうありといふこの時三さん成
くくくくと打う笑わらひひののくく不ふ知ち
や上う極ごくとの秀しゆ軽けい々々決けつして中ちゆう
登のぼりり色いろをを上う福ふちんんどどががままり
みくみくくままゆゆくくののくくびびれれ一い乱らん
をも起おこせせるるあり又また病びやう章しやうるるれ

バ食をくするもの重かさなるほどと見返みかへりも
せ心こころ又また眼めをと岡おかより後田のち中なかの又
此こゝ旨あじとちりんを

内府公うちうらのつりんはなれた石田いしだもな今いま年ねん
よりも骨ほね氣きたためもならずして
却かへりていふるに直政ちかまさ集ありて
小袖こそでとなるをせし合あはれるもさしを
くすりて免めん後ごをせてし刑けい飛ひの期で

城しろまさせしるの事こと！
しる意いありし時とき内うち近ちか習なりし小こ性せう流りゅう
之これ集あはれるにしる事こと！
内うち府うら公こう卿けい機き娘むすめさんと美みの
中なかへしりし時ときありし
又また直政ちかまさをしたたけの事ことありし
しる事こと！
内うち府うら公こう卿けい機き娘むすめさんと美みの

ども雅^{えん}少^{せう}毛^{まう}せ^せる^る。廉^{れん}忽^{くつ}の^のる^るを
中^{ちゆう}之^のの^の邪^{じや}彼^か石^{せき}田^{でん}決^{けつ}す^す。一^{いつ}と^と

知^ちあ^ある^る中^{ちゆう}の^のの^の
家^け康^{かう}が^が恥^ち辱^{じやく}あり^りた^たる^るど^どの^の終^{しゆう}
病^{びやう}の^のこ^こら^ら石^{せき}田^{でん}は^は正^{せい}年^{ねん}彼^か
こ^こん^んと^と辛^{しん}勞^{らう}せ^せる^る。予^よつ^つ
有^あ記^き不^ふあ^ある^る。或^{ある}や^や又^{また}夜^い敷^{しき}の^の足^{あし}
苦^くく^くとも^も渠^えを^を良^{りやう}士^し之^の得^えり^りよ

あ^ある^るに^にら^らる^る。こ^こん^んと^とに^に渠^えを^を勝^{せう}利^りする^る
予^よ於^おて^ては^は天^{てん}下^かに^に名^なを^をと^とる^る人^{にん}者^者
あり^りそれ^をを^を知^ちあ^ある^る人^{にん}こそ^を不^ふ笑^{せう}
た^たれ^れとの^の脚^{あし}比^ひり^りあり^りは^は正^{せい}年^{ねん}彼^か
雷^{らい}の^のど^どく^くお^お笑^{せう}へ^へた^たれ^れを^を皆^{みな}く^く
石^{せき}田^{でん}を^を笑^{せう}あ^ある^るの^のお^お上^{じやう}を^をあり^り
さ^さう^うて^てそれ^をより^りの^の井^い俣^へ会^{かい}約^{やく}少^{せう}博^{はく}
石^{せき}田^{でん}が^が獄^{ごく}庭^{てい}を^を来^きり^りて^て田^{でん}中^{ちゆう}を^を去^さる^る

清と同及ト一の紀法抄度と
宰よりあしあく彼人々大
好して恥と知る人あり
るふとく下僕のごく成るべ
きやと知いづかき一紀法撰
へく直政對西いしりあり
らるる四どののりい氣分
いりい後業者なく成るべ

とあり二成りてこのせりよ成
く業りおるを用ありそこ
直政練めてのりともい命を
いのるん成れ名人の室形
たしあみ行要ありそこ
き迎る憐まとして志らも大
の義行あり業りと用ひられ
氣あつて刑を修る事

武士は法をん又小袖をきんぎょと名替なかひ
主人の衣類いらいを元もと後ごともその
次つぎ次つぎのりあるふとそご僕がのごとく
叔父おじのごや又此葉子こののご衣ぎ
内府公朝勅うちのご別わか派はと
兄あにのご志こころありいりある
は法か及およす別わか年としのごいりり
ありいりごやとごいりりごんを

石田もいしのごくご衣ぎ平へい山やまのご
常とこ時ときのごありいりいり
新水あたらのご葉子このをご給たまへ衣類いらいをご名替な
中なさんといんぎんごとご
今時いま直政ちかをごのごいりいり
手てがごいりいりいりいりいり
後代ごでもごいりいりいりいり
あり去いりいりいりいりいり

由一我千身ての候く由跡急きんく
あしはらへしとりの三故方ああ
それかしの年あより古古岡
の思誠義むりいあつ秀頼の
をあさびて下に候一人そのみ
あふ斗りして人あつ実ヶ原あ
我ひの子むあもいひつらばく
実東の御運目も度るゆえに
い

いれ由政あつるゆきりあつ
のせり味方此御あつとつら
くこれより是の節方田中が扱あひ
軍ありてごらゆへ三故方あつて
れの中り由政をきつさつ
あつ三故方人を紀一太政あを
人あつつて刑あ最ありあつ
あつて井伴があつ入るの

らまゆりあり部く日決然く
尾がそ 内府公石田

お脚封めんのせり三枚産り
おくもその形糖ききしも安
はせん又をれもあしあつさく
以前のごとく記ありさぬあがり
時平に成つしんでさく
御運目出後ゆと斗りよそお

の故ちやらんごとあり
池清

雲ヶ原軍記三編巻の亦一終
池清

油清

関ヶ原軍記三編卷之廿五

目録

一 浮田秀家浮田の事

并進藤三左清の忠義秀家と

藤三左の事

一 浮田秀家薩州より下りて碓氷

碓氷の事

并鴻津長秀家とわくまの事

池清

同ヶ原軍記三編卷之廿貳

浮田秀家源伯の事

并進友三左衛門右兵衛秀家源伯

の事

安平浮田中洲玄秀家も後前

員能支別乃大守として武勇の

衆有り志づらに子のうび冥ヶ

ち〜此合戦千〜ち負けたり
此人を終日福嶋正則と戦ふ
衆人多く〜ち〜ふ〜
つひ千級水〜作吹山〜途
入り〜れ〜と山づ〜
濃別粉川谷〜
この時を信代相傳の人と附
随ぐひ〜りの〜ち〜

兵を及三左衛門〜の一人
の〜あり〜れ〜新集は者〜
三子石川順也〜三左衛門
ち南条六十又文元来三別
御信代〜で本多八束の内
あり〜も武骨在者〜して
徳畧も〜り終〜先年三州
信時一向宗の一揆障紙のと記

和順以後宗門改六人の内は
く三品を退拂り色流人として
久妻妻子家人も親族の良
流の家を三子石をよめて家
来と依候くこの家中千有
一が今主人秀家所人と成
て送り合時千この進度きり
き人借しあり今頼りきり

支別の大者として一方は
よりさしども只今よりして
身も流の物とてこの三友輩の
一人ありん偏一軍語の
ごうく玉家部とて老長あ
りりといひ候し一幸の
知まざるのありされば
色度一人借して流石山の

いづれに里おきつる時く二左衛門
中搦さても今世世此中をど
りうがあしむやまのりの方
清志しあつて清出ぬさん
ひやとるぬら千持秀家のおく
さればとら小玉千近身親族
あり是刻ら加別の利長として
我輩あり候く親もおれど

ちりありとら一左衛門のり
ちりも薩摩此時津美法を約
しとら事もおんむるふとせ
汝らが斗らひして薩別より
とるるば身の安業ぬるべし
ば薩船の薩急し記のありと
中さるるを度方く薩千を遙り
お國遠くく結く大坂

出くくりするれば安危を斗り
かこしとて言ふ事一がなむら
旨お任せありんやとてを秀家
夢て何が叔子細五浦とていふ
時とを友のいさく結れば深田
家此系図と重代の音胸の墓家
次の刃と葉一に後一とあひ
内いらぬと下されるが輪く

と徳畧とよきとていふ秀家
吹ていつと輪とも軍一と斗ふ
鳥よとてあつた家屋の月影
志とていふ申細言秀家の物
城常此胃もそりあし三たの
いよこの百姓とていふ大板
一とあ日乃乃中と送る夏并びよ
四とあ日此とていふあしと

こののみ、（うら）海路（うみみち）用のたくりく
お高（たか）頃（ころ）してたらしひそねが
大坂より舟（ふね）運（おこ）へかさねととも
君を（きみ）押（お）し車（くるま）のまゝる（ま）く
ゆとして名跡（なせき）をくも（くも）門（かど）離（はな）を
太刀（たち）と系（けい）圖（ず）等（ら）持（も）くを友（とも）三（さん）左（さ）
妻（つま）のま大津（おほつ）の三井（さんせい）寺（てら）へ来（き）り
とらる
内府（うちふ）公（こう）ちをや

所（ところ）入（い）洛（らく）の急（いそ）系（けい）部（ぶ）依（よ）見（み）すで（す）集（あひ）り
たりこの時（とき）又（また）浮田（うきだ）小物（せうぶつ）安（やす）否（ひ）さ
等（ら）と尋（たず）ねい（い）と次（つぎ）べ（べ）ま（ま）ち（ち）り（り）と
志（し）き（き）り（り）に
内府（うちふ）公（こう）ちり
御（ご）下（げ）知（ち）ある（る）より（り）徳（とく）人（にん）とらる
名（な）の（の）実（ま）井（せい）あり（り）是（こゝ）に（に）く（く）か（か）や
ぬらぬら尋（たず）ねお（お）ころ（ころ）時（とき）り（り）る
又（また）筋（すぢ）筋（すぢ）ある（る）車（くるま）あり（り）叔（しやく）進（しん）友（ゆう）に

溪^い牙^こるれば本^{ほん}多^た忠^{ちゆう}勝^{しやう}のうら^うら^ら
也^やの對^{たい}面^{めん}してり^りり^りり^りり^りの近^ま年^{ねん}
某^た一^{いつ}深^{ふか}回^{かい}泉^{せん}干^{かん}仕^し由^{よし}らも
内^{うち}府^ふ公^{こう}府^ふの劫^{せき}氣^き越^こ象^{しやう}むりある
也^や一^{いつ}子^この者^{もの}そ飛^とくお^おら^らな^なら^らる
事^{こと}ありこのやと吳^ご浩^{こう}の圓^{えん}粉^{ふん}
川^{かわ}谷^が小^{せう}於^おく南^{なん}至^し人^{じん}秀^{しゆ}泉^{せん}此^{こゝ}
越^こ越^こてい^いはれ^れる^る谷^が一^{いつ}所^{しよ}せ^せる

持^{もち}系^{けい}仕^しる^るは^はの志^しる^るん^んも^も深^{ふか}田^{でん}
泉^{せん}至^し代^{だい}乃^の太^た刀^{とう}る^るび^び干^{かん}系^{けい}泉^{せん}
お^おる^る持^{もち}系^{けい}仕^しら^らの^のぶ^ぶも^もと^と干^{かん}
年^{ねん}系^{けい}の^の御^ご勅^{とく}氣^きを^を 御^ご免^{めん}
郎^{らう}の奉^{ほう}ら^らや^やの^の干^{かん}の^の二^に所^{しよ}の^の
修^{しゆ}正^{せい}し^し事^{こと}也^や也^や也^や也^や也^や也^や也^や
ち^ちの^のの^のご^ごん^ん也^や 内^{うち}府^ふ公^{こう}は
中^{ちゆう}山^{さん}多^た持^{もち}ら^ら也^や 泉^{せん}康^{やう}公^{こう}也^や

恙々々々 墓塚次あらいの古刀ふるの以不あや重し
ふん 百くく びく
御強おん有あて 湯あ是あへ 有あるあるを
ちの 御一鏡有あて ところ
物ものなるも 太刀たかり 所の 上かみ系けい圓えん
もくく びく 係けいく
内府公うちうらも 被あ太刀た此こ湯手あく入いり
し 湯あ係けいび ありて 又また回まわ好こめ

本ほん多た三さん強きやうるるれれををととて
作しやう出しゅつささららく ありむむ子この 三さん強きやうるる
先せん年ねん依よ侍し一い揆けい手て骨こつ形ぎやう たりし
不ふ届とどままののりりののるるんんどども 傳つた代だいり
りのあり 年ねん一い年ねん毛け起おこり
此こううびびのの名なせせつつをを感かんささるる存ぞん
三さん子し石いし城じやう下げささららくくありりとと有ありりて
以も青あお虎こ手て入いささららんんととり 叔おし浮う回かい

い滅亡せしむるぬらり及
て秀家も道廣く薩州へぞ
下りたり

浮田秀家薩州に下りて
佐津
越前守
兼平
秀家
佐津

いよく佐前中洲を秀家も池田
郡白檮むくの天姥み所在傳つ
が舟抱よて大坂までありのび
船よて九州筑前國を下り
せりくとして薩州よつく
そのせり佐津も秀家の身分
をひらんとる思ひしうたを
のともろと遠くとも来りて助命

の頼^{たの}ま^まの^のう^うに^に 延^{のび}く
内^{うち}府^ふ公^{こう}は頼^{たの}ま^まを^をり^り 伴^{ばん}豆^{まめ}比^ひ大^{だい}晴^{はる}へ
を^を流^{なが}ち^ちる^る 友^{とも}小^こ不^ふ意^いの^の友^{とも}あり
福^{ふく}晴^{はる}伴^{ばん}宗^{そう}と^と比^ひ端^{はな}干^{かん}及^{およ}ぶ^ぶその
子^こ伊^い吉^{きち}活^{かつ}中^{ちゆう}部^ぶ婿^{むすめ}狼^{ろう}藉^{せき}比^ひ防^{ぼう}を
比^ひ吉^{きち}小^こ人^{にん}五^ご妻^{さい}不^ふと^と伴^{ばん}宗^{そう}後^ご宗^{そう}
寺^{てら}お^お初^{はつ}む^むる^る 寺^{てら}福^{ふく}晴^{はる}正^{せい}則^{ねつ}上^{じやう}系^{けい}
の^のお^おり^り 三^{さん}条^{じやう}大^{だい}橋^{はし}の^の指^{さし}破^{やぶ}る^る

小^こ宗^{そう}り^り 後^ご宗^{そう}を^をこ^これ^れと^と防^{ぼう}ぎ^ぎ向^{むか}む^む
後^ご晴^{はる}宗^{そう}人^{にん}吉^{きち}村^{むら}不^ふ児^に小^こ宗^{そう}大^{だい}
橋^{はし}等^{らう}お^お働^{はたら}き^きて^て人^{にん}免^{めん}小^こ多^た一^{いつ}
子^この^のせ^せの^の井^い伴^{ばん}本^{ほん}多^た柳^{やなぎ}系^{けい}の^の
三^{さん}将^{じやう}出^でく^く和^わ順^{じゆん}引^ひ志^しり^りき^きく^く後^ご
晴^{はる}正^{せい}則^{ねつ}情^{じやう}怒^どし^して^て山^{さん}料^{りやう}の^の陣^{ぢん}不^ふ
成^{じやう}り^りと^と比^ひ端^{はな}干^{かん}た^たむ^むあ^あり^り
既^{すで}り^り比^ひ端^{はな}干^{かん}と^と背^せ志^しあ^ある^るん^ん一^{いつ}

ありげなるふれとそりて千悔前
 ちがた先りよりのく車一掃
 候千治まりけり

会出よりのく徳略り利出ら
 およらとそりありきりて
 古語のごとく流石なり
 東思文明鏡のたぐり
 御大おなり本多三保杯の

徳略手取りと母の巻記
 うらあ〜んといふは日づり
 由らうとて徳畧おのせ
 らんさ母の志らる時人の
 知恵をたおき候一さりの
 けり徳斗けいとけりて天を
 もそりてく〜地を大海
 の底までもた〜天地の

利きとれ人方とて此智
斗とて何り只今日のうへ
とて心又まじりて
東照宮も実千神のてし
申す斗略るごとくあされ
ゆふ 君よのあうざれども
兼く鳥胸のち刀とばはれ
金よ 思ふ百と本

多之孫を知りて彼ち刀
献どこの利きるととて
おぬくいの法とてあて
浮回を死とてよびあ
やてまぬるびあうり
秀泉とて世の中廣く
く遠身落千下り
神靈のてり記

内府公上人かくれごとく
今日のよしも人成徳畧
所出の利はるる
年なり必し運及すも
我知る事お能く同也
能くある事お能く同也
たらひ終り命ももその

好める事お能く同也
そのく好める物を取らして
謀らむ時の日由るるそのあり
且日用する事お能く同也
法師の事お能く同也
思ふ事お能く同也
少面なる事お能く同也
行お能く同也

佐平 浮田中納言 妻 家も 吳橋の
 國山 中々 進及 三太 場つが 親も
 到 白樫村の 天神 又所 九場つ
 が 女抱 して 幸 ありの ちと 仰り
 九病 と云つる 奴 借 取 百 せん 湖
 大坂 千 かり 布 多 三 孫 け 御 身
 より 船 と 借 して 布 五 丈 前 又
 吳 飛 鳥 といふ 子 居 博 一 遠 入 へ せ

して 瓶 前 の 圓 箱 崎 千 着 しく
 丈 たり 参 くと 産 子 乃 圓 志
 十 龍 頭 ち 者 子 愛 物 ありに
 落 人 乃 身 と ぬ けて 人 目 忍
 お 金 刀 の 子 程 笠 して 顔 と 隠
 衣 振 ち 中 づ 色 さん ド して
 肌 子 っ づ れ 髪 も ち ぎ ら 毛 丸
 是 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

よて日向の國よりけりけり
よて志ざりく休息しそん
よて薩摩此國よりけり宿
入りて薩摩此國の舎又
七師志願しそこの旨とや
入を對めん佐良よりとねがふ
そのさぬを食同前の侍して
不審子ありとて其妻よ

このむよとまかり倉庫
事此振子を其方掛けの甲斐
もあはれ人うれ立苑宗辰を小所
ありとてども居博柳川
攻陣を結らりこの人る二玉
のありとてけりけり
者う邦只今此侍の肥人のこと
しとてどもを所のさるる

ちのぐゝとこの時津と頼中
と来りたる義なる志一義
ふよりくおまをさるる
よりく對面さるる
時入きられしにその後
るゆゑんうすやく衣被り破れ
髪を散りたる下僕のごとく
うげむりし此面うげ有とも

又一ど時津龍伯同く義弘同く
忠恒等の三将も此有様見て扱
もふ便取ら形將うれ此の志も
天下を走る人として後若
莫能あ剋の丈さるる身がわり
あるばあてもおとりたる怖
何事ぞあつて人畜といふ
をよ人あり去りて

少子の時津家と頼りて来り
まゝのものと暮すに改せんを
おあゝとほりしく其の習ひ
あるに頼りて一しそまの衣被
其急智あり水して食るを致
されりちやされり色を秀家
手と合せてよほるびこの已後
る忠を此中と廣くして命

わたりと助るちやと
岡東は時形ひ下さるる
つとちやさる時津もね
此歌ありその友部の
首尾故時親子も承知して
先時〜〜の南条と居らん
と止あり

油漬

関ヶ原軍記三篇巻の廿二段

油漬

